

平成12年度鳥取県中小企業青年中央会 親睦ソフトボール大会開催



さる9月10日(日)朝、朝方まで降り続いた雨があがって空はどんよりとした曇り空であった。おそらく今日のソフトボールは中止で代わりに体育館でソフトバレーボールが行われると確信して体育館の上層きを持参したのは私だけではなかったであろう。

そんな状況の中グラウンドに駆けつけたら、なんと見事に水たまり等ほとんどない状態で日頃の西部青年中央会の精進の賜物?と思わざるをえなかった。

10時に東部及び中部の青年中央会のメンバーが続々と淀江町民グラウンドに到着し、すぐに開会式へと移行した。岡東部会長の力強い開会宣言と、奥森県会長のあいさつが行われ、競技開始となった。

白熱した試合が次々と展開される中、思わず拍手が出る好プレー、腹を抱えて大笑い出来る珍プレーが続出。日頃デスクの上でむっつりしている諸氏、不景気で頭を抱えている諸氏等々の普段かいみ見る事の出来ない清々しい顔が拝見出来た。

さて、試合の方はトーナメントをそれぞれ勝ち上がった中部青年中央会Aチームと西部青年中央会Bチームとで決勝戦が行われ、西部Bチームの破壊力のある攻撃と高田会員、武海会員による継投がやはり中部Aチームの後半の猛攻をかわして勝利に導いた。そして、極め付けは最終回の猛攻の時、我が西部の桶村会員の超ファインプレーにより優勝した事である。ちなみに桶村会員はMVPを受賞した。

後の懇親会はホールサマインかいけで行われた。特に驚いたのは超特大のワインが全員に振る舞われた事で、ビールにほろ酔い加減のところ、ワインときたもんで宴会も最高潮に盛り上がった。このソフトボール大会を企画、運営に携わった沢山の皆様、大変お疲れさまでした。

トライアスロン検討会開かれる

10月14日、21日に会長他四役、ボランティア部長及び副部長、マラソン部長及び副部長、河端と境港AS正副責任者が出席してトライアスロン検討会が開かれた。

中央会は、トライアスロンボランティアとして大会に多大な協力をするとともに深く関わっているところであるが、今年度を含め従来の反省点と問題点を取り上げ、今後トライアスロンに取り組むにはどうあるべきか方法論を含めて検討し、是正する目的で話し合いが行われた。

今後、検討会は継続して行われる予定で、会員の意見を取り上げ最善の組織づくりをすることになった。トライアスロンに対して委員会話し合い、意見を検討会に上程してもらうことで、全会員にトライアスロンボランティアを納得して協力してもらえる体制ができることと思われる。会員各位の忌憚ない意見をお待ちしています。

主な検討事項

1. 中央会の継続事業としての位置付け
2. 中央会全体の組織図作成の必要性
3. 取り組みの早期実施
4. 各ASでの他団体との連絡について
5. 会員は一日中ボランティアを原則とする確認
6. 実行委員会の早期立ち上げの必要性について
7. 各部、各ASで後任に引き継げるマニュアル作成の必要性
8. 各部、各ASの連絡調整について
9. 会員の中で中央会が担当以外の部員の把握
10. 各部長、副部長、各AS正副責任者の決定方法について

What's IT? 第2回

今月は予告どおり「IT用語集①」をお送りします。

1. IT革命

まず第一に取り上げなければならないのがこの語句でしょう。ITとはInformation Technology(情報技術)の略ですが、このような技術は何も今になって突然現れた訳ではありません。では何が革命なのでしょう。ITとeコマース(eビジネス)がくっついた所に革命性が生まれたのです。ビジネスモデルに特許性が生まれたのもこのお蔭です。経済で言えば正に革命的な構造変化が起ころうとしています。また、物流を介しない商取引も現実味を帯びて来るに到り、国境を超え、現制度を超える商取引が始まろうとしています。

iモード、ezwebなど携帯情報端末によるインターネット人口は1700万人を超えました。今、巨大な市場が形成されようとしています。それも、ワン・トゥ・ワンと言う「完全競争市場」がです。あなたはどこに活路を見出しますか?

2. ポータルサイト

皆さんポータルサイトという言葉を開かれた事がありますか?ポータルは「玄関口、入り口」と言う意味ですがインターネットでは最初にアクセスするサイト(ホームページ)を意味します。今、インターネットではこのポータルをめぐる熱い戦いが繰り広げられています。なぜかと言うと、例えばポータルとして代表的なヤフーサイトなどは1日に65,000回のヒットがあるとされています。つまり1日延べ65,000人がこのサイトを訪れている訳です。こういう超人気サイトには広告が群がります。その広告料収入は莫大なものがあります。ヤフー株が一億を突破した要因の一つと言われています。ここ山陰にもポータルを目指すサイトが幾つかあります。今後ますます増えるでしょう。ポータルサイトも過当競争時代に入った感があります。

コピーをして名簿にお貼り下さい

(newカマーズ)

くり た かず しげ
栗田一成 0型
三井生命保険相互会社鳥取支社米子営業所 所長
生・損保険業
〒683-0052 米子市博労町4-358-6
TEL 34-2518 FAX 23-0484
(KT) 090-9507-3622 (EM)
H12.08入会
(推薦者) 釜田(公) 君田(慎)
〒683-0006 S36.6.26 TEL.31-5488

(コメント)
全力で総ての事に取り組んで行きたいと思っています。ご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

10月例会案内

とき 平成12年10月16日(月) 18:30~
ところ ホテルサンルート米子
講師 インターネットビジネス研究所 理事長 杉山勝行氏
演題 インターネットマーケティング成功方式7ヶ条
担当 役員

10月役員会報告

10月定例役員会が平成12年10月2日(月)、米子食品会館に於て開催された。当日の主な議題は、次の通りです。

- (1) 10、11月例会開催の件
- (2) 県経営研修会参加の件
- (3) その他

※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

編集後記

三宅島の噴火、伊豆諸島の地震、東京都内での竜巻、そして名古屋では豪雨による大洪水が起こり生活のための必需品や思い出までもすべて水の中に...

身近に起こる大自然の脅威の前に私たちはなすすべもないのか。忘れさられていたノストラダムスの大予言を思い出したのは私だけでしょうか。

「英知を養う」「フィロソフィア」

2000.10 No.156

Handsomeness

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 土井一朗 編集責任者 浜 義徳 印刷所 東京印刷機

会長より会員の皆様へ 「志と実学」(その1)

“凡人に勝ち方あり”
会長 土井 一朗

志

第1章 決意せよ(勝つ人生には勝つための方法があるようだ)

企業人として経営者として幸せに生きるためには、次の二つが必要でしょう

- ①経営者としての成功そして認められること
⇒志を定め立派な経営の道を開く
- ②私個人・家庭人としての幸せの追求
⇒

こういう人生にしたい	旅行・車・趣味・家庭・芸術・自然とのふれあい・豊かなライフスタイル
こういう物を手に入れたい	
こういう事を達成したい	

強烈な願望を心に抱く(5年後・10年後の夢をハッキリ持つ)
企業人として価値ある人生を生きることを決意する

勝利の鍵

- ①立派な経営を行う
 - 儲ける
正義であることを知る ⇒夢を実現できる力を持つ
売上を最大に・経費を最小に
 - 人を育てる
尊敬される人間になる ⇒己の損得だけでなく人として正しいか否か判断できる人づくり
実学・実践に強い

企業経営とは、社員を守り、世の中を良い方向へ導く使命がある。リーダーの責任は重い、会社にも、世の中にとっても...

実学

第1章 儲ける=正義であると知れ!!

儲けるといいますと何か大きな声でいいにくい、何か後ろめたいと思われる人が多いのですが、企業の損益計算書・バランスシートを良く見ていくと、決してそうではないことに気づくはず。

- 粗利益=売上-原価
経常利益=粗利益-総人件費
(工場・現場・営業・管理等)
-諸経費
(電気・水道・ランニングコストすべて)
-本部費
(減価償却・金利・地代家賃)
-本部人件費
(役員・社長・部長の給与)
- 純利益高=経常利益-法人税等→世の中に貢献する
(教育・国づくり・社会的弱者を守る)

- (1) 既存社員のベースUP→社員の幸せの為
 - (2) 新規採用人件費の枠→雇用の場として大きな責任
 - (3) 内部留保等々→社員を守る経営の実現
 - (4) 出店資金→会社成長発展の元資
- 仮に利益が0ならば、右側にあることはすべて出来ないダメ会社・ダメ経営者となります。

つまり“儲ける=正義”という現実を知ること、経営者・企業幹部は勇気が持てるのです。我に正義ありと信じ、社員を本音でこき使うことが出来なくてはなりません。

すべて数字でつかみ考える

どんな時代にあっても、優れた業績をあげている会社、安定した経営をしている会社の社長は、皆共通して数字に強いのです。数字を専門的に扱う会計事務所以上に数字に強く、分析力や解説力に長けています。企業の「計数管理と業績は比例」します。では、どうしたら数字に強くなるのでしょうか。それは、社長自らが、自分の会社の「経営計画」を作成することが一番の早道なのです。経営計画作成の過程で、自社のあらゆる数字がつかめることになるからです。

9 月度委員会報告

情報メディア委員会

平成12年9月13日(水) 於:日本海情報ビジネス専門学校 出席者/9名

今委員会は長谷川一成会員を講師に「前回の復習(電子メール入門の復習)とITの必要性」を日本海情報ビジネス専門学校にて開催された。

前回の電子メール入門の復習に追加して、ネチケット(ネット上のエチケット)について説明があった。電子メールを送る場合の必要最低限のエチケットは次の3項目である。

1. 簡単・明瞭・簡素・丁寧
2. メールはテキスト形式で(HTML形式では読めない人もいる)
3. CCよりBCC(CCではIDが送信相手全員にわかり、個人情報漏洩の危機も有り得る)

後段は、「IT革命とは」と題し、巷間言われているIT革命の本質についての説明であった。

ITの必要性について

ITとは「情報技術」、ITは日々進化していつている。その中でビジネスの在り方が確実に変わりつつあり、ITが今後どのように社会基盤に浸透し、生活様式から税制などの諸制度の改革にまで、影響が及ぶなどの話があった。

- ・BtoC(企業消費者間電子商取引)
 - ・店舗がなくても販売可能。
 - ・中間流通が不要となりコスト削減(価格低減化)
- ・BtoB(企業間電子取引)
 - ・サプライチェーンマネジメント
 - 販売小売店から工場までの情報共有により取引の大幅な効率化
 - ・協業サイト(インターネット取引所)
 1. 競合他社と手を組み大量調達によるコスト削減
 2. 中小企業同士で情報交換。「必要」「無駄」を省き効率化UPへ
- ・ナレッジマネジメント(業務・営業等の社内情報共有化)
 - ・経営戦略、商品開発にリアルタイム対応可能(スピードアップ)
 - ・現場からトップへダイレクトに情報が流れる
 - ・組織のフラット化



結論として、次のような事を挙げた。今後デジタルバイドはますます拡がり、ITを活用出来る者と出来ない者とははっきりと明暗が分かれる。そう言った構造変化はここ1~2年以内に完了する。中小企業にとっては大変なビジネスチャンスが到来している。アイデア次第で大企業と充分涉り合って行ける「手段」が誰にでも手の届くところにある。

ITを自分とは関係ないどこか別の世界での出来事だと思っていたら、大変な事になると言う印象を受けた。

志委員会

平成12年9月11日(月) 於:米子食品会館第3会議室 出席者/13名

今回の委員会は、過去の歴史を振り返り、現在の日本人の「志」を考えました。

その中で釜田委員長が作成された

- ・アジア独立の契機となった大東亜戦争
- ・ミッドウエイのif
- ・死んでも死に切れない先輩達の心情

の3項目を基に、「志」を歴史上の人物から検証し、各メンバーからは、自分の経験談をふまえ、歴史上の人物と自分達を置き替えた時、今後、私達が歩むべき道、また、現在の若者達の考えや心情など、何故、このような時代になってしまったのか、各メンバーでディスカッションをした。

そして、今後の委員会においても、「志」を他方面から検証しながら、学びたいと思う。

広報委員会

平成12年9月4日(月) 於:米子食品会館 出席者/10名

◎ハンサム10月号の紙面割および内容について

今回はB班がハンサムの紙面を担当する。その中で取材する委員会を9月の他の委員会の内容をみんなで検討し、今月は情報メディア委員会を取り上げ、掲載する事と決まった。

◎9月担当例会の打ち合わせ

今月18日に開催される担当例会の役割分担を時間割に沿って決定し、担当者は流れを考えながら各時間内にどのように動けばスムーズに例会が行なえるかを全員で話し合った。

そして講師先生により講演をやりやすくする為には何が必要かを考え当日準備する物品等を検討し、例会にそなえた。

21地球委員会

平成12年9月11日(月) 於:米子食品会館 出席者/11名

今回の委員会は、ケナフの今後の取り扱いと9月度役員会の協議事項を踏襲した①会員増強②OB交流会③トリアスロンについての意見交換を行った。

ケナフに関しては各会員に種を配布し、栽培をお願いしていることに鑑み、単発の企画で終わらせない努力を今年度の委員会でもすべきという意見に落ち着いた。ただし、ホームページメンテナンスの観点からも何かしらの結論付けが必要であることを確認した。

3つの協議事項については、ユニークな視点から活発な意見交換が行われたが、委員会の総意として以下のようにまとまった。

- ①会員ひとりひとりの中央会に対するモチベーションは様々なので勧誘方法をマニュアル化することは難しいが、誠実で虚飾のない姿勢で勧誘に臨むことを第一とすべき。
- ②従来の手法ではマンネリ化は打開できないのでは?「OB」という大きな枠で括るのではなく、ある期に限定したり、期を区切って出席していただくといったメリハリをつけることが現状打破の近道になるのでは?
- ③中央会の関係事業であることを再度周知徹底すべき。組織に属している以上組織の意志に従うのは当然のことである。ただし、語源が意味するようにボランティアとは自発的に行うものである。「減私と自発」の精神を育む自助努力もされるべきである。

政治・地域ビジョン委員会

平成12年9月8日(金) 於:ホールサムインかいけ 出席者/12名

政治地域ビジョン委員会は、未来を切り拓くという意味合いからも、21世紀における鳥取県西部地域の在るべき姿を色々な観点から追求していく考えで、今年度の年間スケジュールの決定時に委員全員参加型の委員会運営をという事で、H13.1~H13.4月間の運営担当部門の設定を取り入れ各委員が各部門に配属されて、部門ごとの委員会運営をしていく事に決定しました。

(主な部会名称)

- ・建設部門
- ・流通システム部門
- ・政治・行政部門
- ・サービス部門

11月の担当例会の打合せも一緒にやりましたが、一応講演講師をお呼びしてやる形式で、前半45分~50分程度の講演をいただき後半の30分~40分間は、各部門が、最低一つずつ質疑を考へ講師先生の意見を聞く型で、進行する行程で決定。

実学委員会

平成12年9月6日(水) 於:ホールサムインかいけ 出席者/9名

赤浪昭二先生(赤浪会計事務所所長)を講師にお招きし、「リスクマネージメントの基本概念について」と題してご講演いただいた。

(1) リスクとクライシス

リスク(risk)とは自ら覚悟して冒す危険をあらわし、クライシス(crisis)とは予測できない重大局面を意味する。

(2) リスク管理

太平洋戦争時のアメリカ海軍にダメージコントロール士官がいたように、現在のアメリカ企業・国内大手企業ではリスクマネージャーが重視されている。

(3) フィードバックの重要性

成功事例には理論的に説明できない場合があるが、失敗事例はほぼ理論的説明が可能である。

(4) リスクの変化(時代を読む)

成長率の高い企業の7割方はアウトソーシング(外注)に頼り、独自の技術を伸ばすことに専念している。

(5) リスクマネージメント

経営戦略の検証こそがリスクマネージメントの本質である。

9月例会報告

平成12年9月18日に米子国際ホテルに於いて広報委員会担当にて9月例会が、開催された。

まず綱領唱和の後、土井会長の挨拶があり、続いて新入会員1名へのバッジ授与、連絡事項と続いた。

その後、委員長タイムでは、広報委員会の足立委員長が、今年度におけるハンサム紙面作成コンセプトを発表しつつ、中央会の活動内容を各会員がもっと把握して、新入会員や、会員以外の人に自信を持って説明できるようにしなくてはならないと啓発した。

演題:「いのち一番、お金は二の次」

講師:赤碕高等学校教諭 高塚人志氏

陸上できたえ抜いた体を持ちながら20代後半で突然肝炎を宣告され、その後もつらい闘病生活を送った経験をお持ちの高塚氏は、まず「逆仏」(さかさぼとけ)親よりも先に子供が死ぬ事の無念さを実弟と著名人の早すぎた死を例にとり上げながら始まった。

そしてそれが増加している原因は「日本人の食事」にあると考え、現在の日本人の食事と戦前あるいは、江戸時代の食事を比較し、いかに欧米型の食事へ変わったかを説明された。その問題点は日本人は古来からでんぶんの利用がとて上手な民族であり、穀類、豆類、野菜、みそ等を中心の食事をとっていたが、戦後国の政策により、動物性食品を摂取するに従い体格は良くなるものの、体質はむしろ子供にアレルギー性疾患等が増え、弱くなってきているという指摘である。

この現実をふまえ、これから私達日本人が未来の子供達に対しての責任として、また自分自身の為に毎日の食事を考え直し、古来の食事を上手に取り入れていく必要性を力説された。

また内容もさることながら人を引き込む話術、熱意が聞く者を魅了した講演であった。

newカマーズ委員会

平成12年9月4日(月) 於:米子食品会館 出席者/17名

山本良文会員 「第2回 私と中央会」

山本会員は、まず15・20周年の冊子を閲覧しながら「中央会の流れ、生い立ちを知るには周年の冊子を見て活動を知るのが一番早いのではないだろうか」と切り出した。

山本会員の入会はS63年。中央会活動はもう13年になる。入会后1年に満たない会員がほとんどのnewカマーズ委員会において、安部会員、小林会員と共に中央会をよく知るという意味でも前回の安部会員の「第1回 私と中央会」に続き、非常に興味深い物となった。

その後、雑談を交えながら山本会員は、昔を振り返り話を進めた。「入会当時は今と違い、行動に選択の余地はなかった。まずそれがカルチャーショックだった。また、自分は思った事を言う人間だから、よく上から叩かれた。そのあたり、今と昔では会員の感性の違いがあるのではないだろうか。」といい、会員の質が変化していると言われた。

その後、新入会員に中央会の心構えとして少し話があった。「せっかく入会したのだから、ただすごすのではなく、自分の存在意義を示しながら活動をしたほうがいいと思う」「最初のうちは、誰でもできるような仕事ばかり任せられるが、誰でもいい仕事でも、誰かがしなければならぬということの意識が大事」とのお話があった。

我々、newカマーズ委員会の新入会員として、なかなか聞くことのできない話を聞くことができ、非常にためになったと思う。ただ、自分でも気付かない内に言いたい事が言えない人間になってしまっているのではないだろうか、考え直す必要があるように思えた。

総務委員会

平成12年9月6日(水) 於:DAY LOUNGE夢 出席者/15名

◎県中ソフトボール大会、懇親会打ち合せ

◎OB交流会

年内はスケジュール的に無理なので、来年3月か4月頃に予定し、早めに原案を作り準備を進めて行く必要がある事を確認した。そしてOBの方に多数参加して頂き、OBと現役会員が交流を深める為には、どんな事をすれば良いのか、これまでの例を挙げながら討議し、次回以降の委員会で具体的に検討して行く事にした。最後に、特に来年は、レクリエーション例会、7月総会と委員会担当行事が次々あるので、班分けをしてそれぞれの準備に当たって行かないと間に合わないのではと云う意見が出された。

